

1 学校教育目標

【教育目標】

校是「天下第一関」のもと、高い知性・豊かな情操・強い意志・健やかな身体を育み、円満な人間性と社会性とを備えた真に次代を担うにふさわしい人材の育成をめざす。

- ・「知・徳・体のバランスのとれた人間形成」をベースに据えつつ「生徒一人ひとりの進路実現」を目標に教育活動を推進する。
- ・「3年間を見通した教育活動」を推進するために「全教職員で協働して取り組んでいく体制」の強化を図る。

【中・長期目標】

- ・単位制に基づく特色ある教育課程を編成し、多様化する生徒の進路選択に適切に対応することにより、生徒一人ひとりの進路実現に努める。
- ・学習習慣の確立による学力向上と授業研究・授業評価の推進による授業改善に努め、地域の期待に応え得る進学実績の向上を図る。
- ・積極的情報発信及び地域との連携による、開かれた学校づくりに努める。

【25年度重点目標】

- ①学校運営：学校運営に主体的に参加し、PDCAサイクルによる改善・充実を図る。
また、OJT等の推進により、資質能力の向上を図る。
- ②学習指導：3年間を見通した継続的・組織的な学習指導により学力向上を図る。
- ③生徒指導：自主・自律の校風を尊重しつつ品位ある生活習慣を確立する。
- ④進路指導：3年間を見通した継続的・組織的な指導により希望進路の実現を図る。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

【学校運営】

- ・進路指導を中心に組織的な学校運営が進んでいる。今後はPDCAサイクルによる改善・充実を図り全職員が学校運営に主体的に参加できる工夫が必要である。
- ・百周年事業実行委員会が発足し、事業内容の方向性が定まり、今後具体的な行動に移していくことになった。

【学習指導】

- ・全体の学力向上に努める必要があるが、成績不振者対応が重点的な取り組みになっている。
- ・授業公開については、進路講演会等とリンクさせて実施し、参加者の増加を得ている。
- ・教務内規の見直しを行い、「高校生活の手引」の内容を充実している。

【生徒指導】

- ・登校指導や全校終礼等での指導を通して、生徒の「制服を正しく着こなすこと」への意識は高まってきている。
- ・生徒の実態把握とトラブルへの早期対応により問題解決を図っている。

【進路指導】

- ・進路だよりを月1回のペースで発行し、学校からの情報提供に努めている。
- ・進路検討会では1年間の進路情報の流れを考え、学期ごとにテーマをもって行い、効率化を図り、時間短縮に努めている。学年によっては進路よりも教務的、教育相談的な内容もあり、さらに検討すべきポイントを明確にする必要がある。
- ・上位層を増やし、難関大学の志望者を育てることが課題である。

【教育相談】

- ・不登校傾向を示す生徒に対して、学年、スクールカウンセラーと連携し、早期対応に努めた。しかし改善に課題があった生徒もおり、一層の工夫が求められる。
- ・LHRの人権教育で一定の成果を得た。さらに人権意識の高揚に努める必要がある。

【図書情報】

- ・教務部と進路指導部がそれぞれ管理する各種データの一元化を図るとともに、セキュリティを高めるため新システムの導入を進めたが、まだ本格稼働には至っていない。

【健康安全】

- ・学校のゴミ減量化への取り組み意識が、回収業者の作業により削られるケースがあった。
- ・年を追うごとに、施設改修と予算の問題が増大している。

【理数科】

- ・先端技術体験学習については、内容の充実を求めて1学年は、実習先を変更している。2学年は同じ実習先であるが、実習内容を協議し満足度の高いものとなっている。
- ・課題研究では、取り組みを早め、研究を深めた発表が増えた。来年度は、理数科の科目として取り組むので、より一層研究内容を深め、発表会では1年生にもわかりやすいプレゼンができることよい。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

【学校運営】

- ・職員が学校運営に主体的に参加し、新しい企画やアイデアを活かし、活力ある学校作りを進める。
- ・開かれた学校づくりに向けてホームページをさらに充実させる。

【学習指導】

- ・長期欠席の生徒が増加しているので、教育相談部と連携しながら、より綿密な対応をする。
- ・成績不振者への対応を継続しつつ、成績上位者の学力向上方策について検討し、取り組みを進める。

【生徒指導】

- ・服装指導を継続して生徒の「制服を正しく着こなすこと」への意識のさらなる定着を図る。
- ・いじめアンケートや日々の指導を通して、生徒の実態把握に努め、タイムリーな指導を心がける。

【進路指導】

- ・3年間を見通した時に各学年の各学期において、進路として必要な生徒情報は何か、この時期に生徒は何を身に付けていくべきかを明確にする。
- ・上位層を育てるために昨年度行った東大見学会や難関大学志望者向けの進路講話、今年度実施予定の3校合同東大模擬試験実施など難関大学志望者用のカリキュラムを実施する。

【教育相談】

- ・悩みを抱える生徒のサインを見逃さない迅速な初動対応を強化する。

【図書情報】

- ・図書館の利用について進路指導部と連携して見直しを進める。
- ・成績処理の新システムが円滑に運用されるよう校内研修等を実施する。

【健康安全】

- ・ゴミ減量化への取り組みについては、教職員の共通理解は元より関係業者との意思疎通を十分に図る。
- ・施設・設備の老朽化が進む中、安全面に配慮した計画的な修理・改修を進める。

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	学校行事の円滑な運営	・入学式、卒業式の円滑な準備と運営・業務分担の検討を行う。 ・校外研修の時期、内容を検討し、業者選定を円滑に行う。 ・卒業アルバム製作者選定を円滑に行う。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・入学式等滞りなく円滑に実行されている。 ・校外研修はスキー研修の是非も含めて幅広く検討した。 ・卒業アルバム選定については年間を通して連携のとれることも選定基準として確認した。	PTA新聞は素晴らしいでさえであった。	A
	保護者との連携促進	・PTA活動のより積極的な運営方法を検討する。 ・新聞委員と連携し、PTA新聞の紙面の充実を図る。 ・情報部と連携し、ホームページから積極的に情報発信を行う。 ・高P連全国大会（山口県開催）の成功へ向けて協力体制を築く。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	・運営については現状維持で進展が見られなかった。 ・PTA新聞編集委員会を7回行い入念な紙面チェックを行うことが出来た。 ・ホームページは情報部から発信された。 ・高P連全国大会は協力して実行できた。	西高ブログは大変よい。いつも楽しみに見ている。 本年度の高P連全国大会への取り組みは大変良かったと思う。	B
	情報発信の推進	・メール配信システムを円滑に運用する。また、システムの改善を研究する。 ・ホームページを活用して機動的に情報発信できるようにする。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・メール配信システムは円滑に運用できた。 ・ホームページに「下西ブログ」を新設し、迅速な情報発信ができた。	百周年記念事業については、具体的な内容はまだまだのようであるが、しっかりと検討して良いものにしてもらいたい。	A
	百周年記念事業に向けた準備体制の整備	・百周年記念事業実行委員会と連携し、百周年記念事業の円滑な推進を図る。 ・関連資料等の収集を進める。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	・実行委員会を4回行い組織・計画の概要を決定した。 ・具体的には計画が立っていないので資料等の収集もこれからのものが多い。		B
学習指導	授業時間の確保と適切な学習指導及び学習環境の整備	・時間割係による日課変更により、授業時間の確保に努める。また、臨時休業等に対する授業時間の確保について各分掌と連携をとり対応する。 ・新入生に対して、学習オリエンテーション・自学自習の時間・週末課題等を計画的に実施する。また、各学年と連携をとり、成績不振や学業に不安を抱える生徒をフォローしていくとともに、生徒の負担加重にならないよう週末課題の量を調整する。 ・3年2学期末考査後の授業や1・2年学年末考査後の授業の編成を計画的にスムーズに行う。 ・教室や廊下を中心に校内の美化に努める。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・時間割係による日課変更で授業時数の確保は対応できた。 ・成績不振者に対しては、学年と連携をとり十分行われている。週末課題の量や質の向上はさらに検討する必要がある。 ・3年生の2学期末後の授業変更や特編授業の対応は早めに行われた。 ・各学期2回の床磨きが計画的に行事予定の中に組み込まれて、校内の美化作業を行った。		A
	授業改善に向けた研修等の充実と新教育課程への対応	・情報や課題を共有して各教科、各学年の縦横の連携を図るとともに、学力向上に向けた新たな取組を検討する。 ・中学校の研究授業への参加を促し中高連携を推進するとともに、新入生への指導に役立てる。 ・年1回の公開授業を実施し、積極的な参観を呼びかける。また、各教科でテーマを決めて授業研究に取り組む。 ・授業評価を生かした授業改善の実施とシラバスの内容の充実改善を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	・学力向上委員会を2学期に開催し、各学年の連携と取組を検討した。 ・公開授業を実施し、41名の来校者があった。さらなる積極的な取組が必要である。 ・各学期ごとすべてのクラス、すべての授業で授業評価を実施し、授業改善に努めている。	新課程への対応がスムーズにできていると思う。 授業を大切にし、魅力のある授業を実践して欲しい。	B
	3年間を見通した継続的・組織的な学習指導体制の構築	・模試で返却された答案をコピーし、生徒への迅速な答案返却と各教科の答案分析の充実を図る。模試分析の結果報告の仕方については、効率性と実用性を考えていく。 ・予備校等の教科指導向上プログラムや各大学別問題分析会などへの参加を呼びかける。 ・各学年の縦の連携を図り、学校としての教科指導体制を再構築する。 ・面談資料において、学習時間・進路意識を調査し、生徒にフィードバックする。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・模試会社の答案のPDFによる提供と答案のコピーにより、生徒への答案返却が以前より早くなった。答案分析については、昨年より生徒の解答分析に比重を置いたものに変え、授業等で活かされている。 ・予備校等の教科指導向上プログラムや各大学別問題分析会への参加は例年以上に多くの教員が参加した。特に西高での経験年数が短い教員の参加が目立った。 ・各学年の縦の連携は充分とはいえない。週に1回程度各学年の代表が集まり3年間の流れを共通理解する機会を持つ必要がある。 ・学習時間・進路意識調査の結果は、進路検討会や回覧で共通理解を図り、その後個人懇談、三者面談や進路だより等を通して生徒にフィードバックした。	美しい環境の中で生徒に勉強させて欲しい。 予備校等の授業方法についても研究し、良いところは取り入れて欲しいと思う。 模試の答案をコピーして答案返却を早くすることは生徒にとって大変良い。	A
	新教務システムの円滑な運用	・情報部と連携して成績処理、出欠統計、指導要録において教科担当及び担任の業務を支援するとともに、表簿の様式等新教育課程の学年へ対応していく。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・新システム2年目に入り、かなり円滑に運用できるようになっている。表簿の様式等新教育課程の対応はほぼ終了した。		A
	基本的な学習習慣と学力の定着を図る。	・新規作成の「学習の記録」ノートへの記入などを通して、家庭学習等について自覚的に考えられるよう支援する。 ・まずは落ち着いて学習に取り組むこと、次に「小テスト」などを通して基本的な学力の定着を図ること、そしてその上に学力の上積みを図ることに取り組む。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	・「学習の記録」については、意識してきちんと取り組む生徒には相応の成果が認められたが、意識付けに苦勞する生徒も多かった。 ・小テストについては、できるだけ「自発的な学習」という視点から取り組ませたが、「緩さ」から「甘え」に繋がる生徒も多かった。	課外などの要望が多いようであるが講座を増やすことはできないか。 理科のさらなる活性化を進めて欲しい。	B
	基礎学力の充実を図るとともに自ら課題を見つけて学ぼうとする姿勢を育てる。	・学年の教科担当者間で調整し、生徒の学力が最大限伸ばせるよう、課題などを設定する。 ・授業等を通して、考える力の育成に努める。 ・基礎基本の重要性の認識を高めるとともに、2年生としての学習習慣の確立に努める。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	・教科の課題について、その調整役の教員を配置する必要があった。 ・各教科の授業において、考えさせる発問を工夫し、生徒の論理的思考の醸成につなげることができた。 ・「3年0学期」を意識し、受験体制にスムーズに入れるよう、担任が協力して、面談、声かけを行っていた。	1、3年生に比べると2年生の成績にやや不安を感じる所があるため、きめ細かな指導をお願いしたい。	B
	大学受験をふまえた授業内容の充実と課外を通して確かな学力の定着を支援する。	・授業を中心に、課外や土曜講座、添削等で大学入試に対応できる学力を身につけられるようにする。 ・アラカルト講座など志望校に適した講座を設定する。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	・進路で募集する課外、土曜講座以外にも各教科で弱点補強のための課外や添削を実施した。 ・前期・後期で講座の内容を変えるなど、生徒の実態に応じた指導ができた。	理科の課題研究発表ではテーマの設定時期はいつ頃が適切なのか、それなりに良い結果は出ていると思うが、余裕をもって取り組むようにできたらよい。	B
	理数科課題研究の充実	・研究テーマ決定までに事前指導の時間を確保し、充実した探求活動ができるテーマを決めて取り組む。 ・研究班は数名で構成し、個々の生徒が十分活動できる内容の研究計画を立てて実施する。 ・校外での発表を前提にしてレポートやプレゼン作成を行い、発表内容や発表技術を高める。 ・理数科科目「課題研究」の指導方法、評価方法などについて研修に努める。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	・年度当初の実施計画どおりに時間を確保できない状況が生じ、研究の進行に支障がでた。各分掌の行事計画との関わりを十分把握しておく必要があった。 ・学習評価については、個々の活動と班活動について評価し、総合評価を行うが、評価の対象物や評価基準等について引き続き検討を重ねたい。		B
先端技術体験学習の充実	・大学等の体験学習先と時間的余裕を持って実施計画を検討し、内容の充実に努める。 ・体験学習の事前指導や事後指導を工夫し、学習効果が上がるよう努める。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・体験学習先は昨年と同じだが、内容については相互に検討を重ね、新たな内容で実施できた。当日、充実感を味わった生徒は多いが、そのことが課題研究等の取り組みに生きる事後指導が課題である。		A	

生徒指導	基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・SHR、授業等を通して時間厳守の意識を徹底する。 ・服装、髪型等の指導について、教員の共通理解を図り全教員による指導の機会を設ける。 ・全教員による月2回の登校指導を実施する。 ・クラス、全校集会等あらゆる機会を通じてマナー意識の向上をはかる。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般で時間厳守の意識は徹底できた。 ・全教員による月2回の登校指導と生徒指導部による登校指導を予定どおり実施したことが、教員の共通理解を図ることや生徒個々への指導の徹底につながった。 ・学年集会、全校集会等の機会を活用し、マナー意識の向上を呼びかけたが、一層の徹底が必要である。 	B B B A A A
	自他の生命を尊重する豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回「いじめ」に関するアンケート調査を実施し実態把握に努めるとともに、学年、教育相談と連携して対策を講じる。 ・携帯電話、インターネットによる書き込み等の注意を喚起するため人権教育担当と連携するとともに、機会を捉え保護者への啓発も行う。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の「いじめアンケート」を実施し、対応が必要なケースは学年、教育相談と連携して対応した。 ・学年集会、全校集会等の機会を活用して、携帯電話への書き込み等について注意を喚起した。保護者への注意喚起もPTA総会、常任委員会等で行った。 	
	危機管理意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地震を想定した防災避難訓練および防犯避難訓練を実施する。 ・交通安全教室を実施する。 ・携帯電話も含めた貴重品の管理を徹底する。 ・不審者情報などを速やかに生徒に知らせ、登下校時等の危機管理意識の向上を図るとともに、速やかな通報等その対応の指導を行う。 ・危機管理上必要な時に、全校集会、学年集会等をもち、意識の徹底を図る。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり避難訓練、交通安全教室を実施し、危機管理意識の向上を図った。 ・不審者情報等については適切な時期に周知した。 	
	集団生活における基本的なマナーを育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年団全体で、HRや授業の始めなど徹底して指導する。 ・クラスの中の居場所作りをするともに、文化祭・クラスマッチ・体育祭などの学校行事等を通して指導していく。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・教員サイドからの指導は徹底して行った。 ・挨拶の励行など、呼びかけが浸透してきた部分もあるが、身勝手な行動をとる生徒もまだいる。 	
	中堅学年として上級生と協力し、下級生の模範となるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて学年集会を実施し、規律ある学校生活が送れるように指導する。 ・校外研修を通して集団行動の意義を学ばせる。 ・学校行事では上級生と協力して充実したものとなるようにさせる。 ・担任だけでなく学年全体で、保健室や教育相談部と連携をとり、生徒の問題解決を図る。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学年集会や各HRなどを通して、生活の心構えやその態度について説諭し、生徒の意識の改革につなげた。 ・校外研修での生活を通して、集団生活におけるマナーなどを学ばせることができた。 ・文化祭、体育大会、クラスマッチ等の学校行事の運営に深く関わらせることにより、上級生をお手本とし、高校生としての心構えなどを多く学ばせることができた。 ・生徒の心の病について、問題の早期発見解決を保健室や教育相談部と連携し行うことができた。 	
	最上級生としての規範意識を持たせ、リーダーシップが発揮できるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は最上級生として下級生を引っ張っていきける集団作りを心掛ける。 ・学校行事だけでなく、日常生活や委員会活動・生徒会活動などでも積極的に動ける集団になるよう支援する。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭、体育祭では最上級生としてよく頑張った。 ・ほとんどの者は、規律を守り、最上級生として、または受験生としての自覚をもって行動できた。 	
進路指導	3年間を見通した継続的・組織的な進路指導体制の見直しと効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会や分掌を越えた会議などを通して、各学年、分掌と連携を図る。 ・NCAの年間指導計画の見直しを検討する。 ・個人面談や三者懇談を充実させ、時期的なトピックや各教科指導の対策など担任によって偏りがでないように標準化していく。 ・学校の進路指導の状況を保護者や生徒に理解してもらうために進路だよりを発行する。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会を開催し、模試の分析結果を基に各学年の現状を把握し、対応策を検討した。 ・NCAについては、例年通りの形で行った。ただし、出前講義やキャリアセミナーの講師については、学年の現状や時代の流れを意識した選出を行った。今後、カリキュラムの見直しをすべきかどうか検討する必要がある。 ・個人懇談や三者面談については、担任によって偏りが見られるという意見もある。進路検討会のさらなる充実と個人懇談マニュアルの確認が必要である。 ・進路だよりについては予定どおり月1回の発行を行うことができた。 	B A A A B
	進路選択能力の育成及び生徒一人ひとりの夢の実現に向けての支援	<ul style="list-style-type: none"> ・総合授業との連携によってキャリアセミナーや大学セミナー、出前講義などを充実させ、望ましい職業観の確立を図る。 ・校外で行われる職場体験やセミナーに積極的に参加させる。 ・大学や職業に関する最新情報を入手・整理をし、担任や担当者が生徒に情報提供できるように工夫をする。 ・生徒の進路意識を向上させるためにも生徒一人ひとりが各自の適正に応じた目標設定ができるように指導していく。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の社会進出やリジェジョの育成を考えた講師の選出などさらなる多様化に応じた講師の選出に努めていく必要がある。 ・医療体験セミナーや看護体験や薬剤師フォーラムなど職場体験セミナーへ積極的に参加した。 ・大学については、校内外で行われた大学説明会や出前講義、大学セミナー、オープンキャンパスなどを通して、職業については、キャリアセミナーや体験学習により、情報を入手する機会とした。 ・個人懇談、三者懇談、進路部長による3年生全員との個人懇談、さらに例年よりも進路講演会を増やし、進路意識の向上に努めた。ただし、生徒の多層化に応じた企画を増やす必要がある。 	
	生徒の主体的な進路決定を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談やNCAでの学部・学科研究などを通して、進路への関心を高め、特に普通科については文理選択で具体的な志望を十分に考えさせる雰囲気を作っていく。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・NCAや学年集会を通しての意識付けと、担任の個別指導とが相俟って、文理・科目選択については適切な比率に落ち着いた。 	
	生徒一人ひとりの進路実現のために、志望校をより具体的に決定できるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会を通して生徒の情報を学年として共有し、進路決定の支援、および学習の支援ができるようにする。 ・九州大学のオープンキャンパスや他大学のオープンキャンパスを通して早期の志望校決定の支援を行う。 ・面談、大学セミナー、出前授業を通して生徒一人ひとりが自ら進路決定出来る力の育成に努める。 ・東京大学見学会や様々な機関の行う説明会等を通して、上位層の集団づくりをしていく。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会での話題を学年の教員と共有することで、生徒一人ひとりの進路実現のための方策を組み立てることができた。 ・九州大学のオープンキャンパスの参加アンケートで生徒の評価が比較的高かった。 ・面談や、総合的な学習の時間で行う、外部講師によるセミナーは生徒の進路意識の醸成につながった。 ・東京大学見学会や様々な学習会を通して、生徒同士の仲間意識を高め、学びあいの雰囲気を作ることができた。 	
	適切な志望校決定と合格への具体的な取り組みができるように支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬試験を各自で分析し、自分の弱点を早く見つける。 ・夏季休業までに志望校の科目を確認し、1・2年の復習や総仕上げをして1年間を見通した計画をたて実行できるように支援する。 ・2学期以降は大学入試センター試験を意識しながらも二次個別試験にも対応できるような学習プランを維持させ、最後まで粘り強く取り組めるように支援する。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期以降他校比較で落ち込みがあり、弱点補強のための課外や添削を行い、センター試験では、ほぼ追いついたように感じる。 ・上位者と下位者の差が大きく、中間層が薄いという結果になってしまったが、今後中間層をどう育てていくかが課題である。 	
	教員間及び保護者との相互理解の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「配慮を要する生徒」について、情報の共有をはかる。 ・週1回教育相談部連絡会を行うことで、気になる生徒について意見交換をし、状況変化を正確に把握し、支援の方法を検討する。 ・保護者会の際、生徒の生活面についても聞き取りをし、メンタル面の支援が必要な生徒の情報を迅速に把握する。 ・1年生1学期の進路検討会において、心理検査の結果を必要に応じて提示することで、生徒理解に役立ててもらった。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「配慮を要する生徒」のファイルの回覧により、学年内で、情報の共有化が図られた。 ・SCを加えた部内連絡会で気になる生徒の状況把握や支援方法を検討をした。 ・担任との連絡を密にし支援の早期開始に努めた。 	
教育相談	スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・面談予約簿を活用し、相談の予約を簡便にできるようにする。 ・教育相談だよりを発行し、スクールカウンセラーの紹介、来校日の周知を図る。 ・各担任からの情報を必要に応じて学年・教育相談部で共有しスクールカウンセラーに助言を求め、 ・教職員のカウンセリングマインドの向上のため、随時アドバイスを求める。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初にSCの紹介と来校日を記した文書を配布したが、何度かに分けて随時知らせても良かった。 ・支援の方法についてSCから必要に応じ助言を受け、参考になった。 ・学校に登校できないケースはSCが家庭訪問を実施した。 	
	豊かな人権感覚を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・立案に当たっては、担当教員が学年団の意向をくみ取り、生徒の実態に即したものである。 ・県教委人権教育課が上げている人権課題を、すべての教育活動を通じてなるべく多く取り入れていく。 	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年については外部講師を招き講演を行い成果が上がった。 ・授業で扱いきれない人権課題をどのように取り上げるか課題である。 	

図書情報	図書館の充実と読書指導の推進	・清掃活動、図書当番など図書委員の主体性の養成と支援を行う。 ・計画的・系統的に図書の充実をはかり、購入を円滑に進める。 ・読書会の開催や図書だよりの発行による読書の啓発と楽しみの普及を進める。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・図書委員会活動、読書会等計画通りに行うことができ当初の目的は達成できた。	図書館の利用者も増加しつつあり、良い状態にあると思う。 図書室利用時間の延長を考えていただきたい。	A
	成績処理等にかかわるシステムの一元化	・成績管理システムをより円滑に活用できるようにプログラムの修正・改善を随時行う。 ・各教員が成績管理システムをうまく活用できるようにそれぞれの業務を支援する。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・成績管理システムは随時プログラムの修正を行った結果、円滑な運用ができた。 ・各教員がシステムの利用に習熟した。		A
	校務情報の共有化と個人情報管理の徹底	・校務で作成したファイルやデータを個人のPCに保存せず、校内LANのサーバーに保存することを徹底する。 ・セキュリティ意識向上のための研修会を実施する。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	・情報漏洩と思われる事案は発生しなかった。 ・セキュリティ等に関する個人への支援は継続的に行ったが、研修会は実施できなかった。		B
健康安全	生徒と教職員がともに取り組む安全衛生管理体制の確立	・定期的安全点検と即時改善を図る。 ・校内の清掃活動を係活動とリンクさせ活発に行う。 ・学校周辺(通学路など)の清掃活動(クリーン作戦)に取り組む。 ・校内のゴミ減量化・分別を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・保健整備委員による環境衛生検査結果を環境改善に役立てることができた。	集団欠席もなく良好な状況である。	A
	生徒と教職員がともに取り組む健康管理体制の確立	・健康診断結果を生徒・教職員の健康管理に役立てる。 ・感染症情報や学校の取組をタイムリーに公開する。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	・学校欠席者情報収集システム(下関市)に加わり、周辺校の感染症情報もいち早く入手することができるようになった。		B
	生徒と教職員がともに取り組む生涯スポーツ推進体制の確立	・体育的行事において生徒の主体的活動を支援する。 ・昼休み時間の施設開放を行う。 ・新体カテストの生徒へのフィードバックを行う。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・体育大会・クラスマッチにおいて、生徒の主体的活動を支援することができた。		A
業務改善	学校の組織等	・校内研修等を通して意識の高揚を図る。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・職員会議や朝礼時、県からの文書や新聞記事を利用して年間を通して実施した。	世間の信頼を大切に綱紀保持に努めてもらいたい。	A
	網紀保持意識の高揚						
	日常的な業務	・ヒアリングシート等を活用し迅速な報連想を心がける。 ・分掌間の効率的連携により、組織力を強化する。 ・学校のサーバーやグループウェア等を活用し教職員間の情報共有をいっそう進める。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	4	・サーバーやグループウェアは効果的に利用されている。 ・職員から管理職への連絡や報告も迅速に行われている。		A
	分掌間の連携	・各分掌で効率的な業務遂行に努める。 ・業務内容を見直し、必要に応じて簡素化を図る。 ・成績処理等データ処理方法の見直しにより負担軽減に努める。	4: 十分な取組ができた。 3: 一応の取組はできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全然取組めなかった。	3	・成績管理システムは修正を加えながら利用しやすいものになり、円滑に運用できている。 ・部活動指導に係る長時間勤務者の削減が課題である。		B

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

<p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導を中心に組織的な学校運営が進んでいる。本年度からHPに「西高ブログ」を掲載し、積極的に情報発信に努めているが、今後もさらに本校の良さを外部にPRする活動を進めていくことが大切である。 ・百周年記念事業にむけて具体的な内容を検討し、早めに行動に移していく必要がある。 <p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の学力向上に努めるために、学力層に応じた取り組み(課題内容、課外授業、補習授業、添削指導)を工夫していく必要がある。 ・教員の授業力向上のために積極的に研修等に参加し、生徒の興味関心を引く授業の工夫に努める。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校指導や全校終礼等での指導を通して、挨拶、時間厳守、服装、集団活動など生徒の規範意識は高まっている。 ・学年、生徒指導部、教育相談部の連携によって生徒情報を共有し、適切に対応している。今後はスマートフォンなどの通信機器によるトラブルが生じないように、指導をさらに強化していく必要がある。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学実績向上のために職員の意思統一と部活動を通しての進路指導など、生徒の進路実現に向けて様々な角度から指導をしていく必要がある。 ・進路検討会では3年間の進路指導の流れを考え、各学期ごとにテーマをもって行い、効果的な運用に努めている。検討会の意義を明確にし、生徒の現状把握、教員の指導力向上、保護者との連携強化に繋げていくことが大切である。 ・生徒の「志」を育て、高い目標に向かってお互いにチャレンジする意欲を持たせることで、上位層を育てていく必要がある。 <p>【教育相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配慮が必要な生徒に対して、学年、スクールカウンセラーと密に連携し、早期に対応できた。今後も情報を共有することで、早めの対応を心がける必要がある。 ・人権教育においては外部講師の講演で一定の成果を得た。授業で扱いにくい人権問題をどのように取り上げるか課題である。 <p>【図書情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種データの一元化が進み、不都合な部分を修正しながら新システムの運用が進んでいる。 ・セキュリティ等に関する個人的な支援は行っているが校内の研修会等も実施していく必要がある。 <p>【健康安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境衛生検査を実施し、環境改善に役立てた。 ・学校欠席者情報収集システムによって、周辺校の感染症情報もいち早く入手することができるようになった。 <p>【理数科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端技術体験学習については、新たな内容で実施し満足度の高いものとなった。それを、課題研究に繋げる工夫が必要である。 ・普通科とは違う理数科の魅力(良い点)を積極的に外部に情報発信していく必要がある。

7 次年度への改善策

【学校運営】

- ・校外研修については新たな意見等もあり、スキー研修とともに検討していく。
- ・PTA役員については、2015年度のPTA執行部の改変を見据えて人選を進める。
- ・進路関係のデータと共有できる教務関係のデータがさらに増やせないか検討していく。
- ・メール配信システムの改善に向けて研究し、「下西ブログ」の安定運用に努めていく。
- ・百周年記念事業については概要が決まり、その実現に向けて具体化していく。

【学習指導】

- ・来年度、3年生が理科と数学で、1・2年生が全ての教科で新教育課程に移行される。授業進度等の様子を見ながら教育課程を改善し、長期休業中の課外授業等の利用も検討していく。
- ・教員の指導力向上のため、予備校等の授業改善や大学入試研究などの企画に積極的に参加するように呼びかけていく。
- ・生徒の多層化に応じた課外を企画し、きめ細かい学習支援を行う。具体的には早朝課外や土曜講座については、基礎、標準講座の開講を目指す。
- ・今年度実施した「学習の記録」にこだわることはないが、生徒が自発的に学習に取り組めるように、何らかのシステムを考えていく必要がある。
- ・小テストや週末課題等は、生徒の実態に併せて軽重を考えながら実施し、教科の枠を超えた調整役の教員を配置し、生徒が過剰に負担を感じたり、また不足を感じたりしないように調整する。
- ・基礎・基本ができていない生徒が多くなりつつある。授業などで復習的な要素を含んだ展開を考え、また補習的な課外も実施する。
- ・土曜講座、早朝課外さらにアラカルト講座、小テスト等の内容を生徒の実態に合わせてしっかり考えていく。3年次、部活終了後の放課後課外も検討していく。

【生徒指導】

- ・登校指導は継続して実施し、教員の共通理解をさらに図る。
- ・全校集会の回数を増やし意識の向上に努める。
- ・「いじめアンケート」の実施後の分析で、教育相談、学年との連携をさらに進める。
- ・携帯電話、スマートフォンの安全な利用に関する講習会を開き、さらに注意を喚起する。
- ・防災意識の徹底を図るため、講習等を計画する。
- ・集団づくり、学年の雰囲気づくりには、担任の指導はもちろん、定期的な学年集会が効果的であり、これらを両輪として指導していく。
- ・生徒の心の動きに敏感に反応できるよう、月に1回程度、保健室や教育相談部の教員も交えて学年会を開き、情報を共有する。

【進路指導】

- ・進路指導の業務の遂行が基本的に学年単位であるため、計画の段階で前年度の踏襲の形になっている。進路指導部内の縦のつながりを強化することで業務改善が可能であると考えられため、月に1、2度はミーティングを行い、全体の把握を行っていく。
- ・文理選択や科目選択が1年次の最重要事項だが、それと並行しながら学習意欲を喚起し、積極的に取り組む姿勢を醸成していく。
- ・上位層を引き上げるきっかけとなった進路行事は、今後も続けていく。
- ・学力不振の生徒に関しては、うまく学習に向くことができるよう、担任だけでなく、教科担当や部活動顧問などと面談を行い、教員全体で生徒を支援していく体制を強化する。
- ・来年度から新課程ということで、早い段階から安全志向が目立ったが、実際の入試では、どこを受けても絶対安全ということはないため、最後まで強い意識をもって受験できるように指導していく。
- ・生徒の多層化に応じた企画と進路講演会等での講師の人選について新たな目線で検討を行い、生徒一人ひとりの可能性を広げていく。

【教育相談】

- ・支援の効果なく改善が見られないケースに対し、どのように対応したら良いか研究する。
- ・生徒がスクールカウンセラーをもっと身近に感じられるように「SCだより」を発行する。
- ・人権教育実施後の生徒の感想を全体にどのようにフィードバックするか研究する。

【図書情報】

- ・例年同様図書館の充実を図り、利用者の増加をめざす。
- ・システム作成業者との連絡を密にして、運用上の細かい要望にも対応する。
- ・情報セキュリティ意識向上のための研修会を実施していく。

【健康安全】

- ・環境美化に対する意識の向上を図る。
- ・PM2.5、黄砂、光化学スモッグなどの動向にも臨機応変に対処していく。
- ・生徒・職員・保護者からのアセスメントを参考に、更に環境整備・改善に努める。

【理数科】

- ・課題研究においては、綿密な授業計画をもとに実施時間を確保し、探求活動が効果的に深まるようにする。また、研究テーマの決定、予備実験を丁寧に扱い、充実した活動ができるよう支援する。
- ・研究成果のまとめ、発表は校外の山口県理数教育研究大会等を見据えて、技術を高めさせ準備させる。
- ・高校では実施困難な先進的科学技术等に関する体験的学習を目指し大学等と連携を取り計画・実施していく。
- ・体験学習が進路選択の一助になるよう、事前・事後の指導を工夫する。